

研究課題名	一般細菌検査における喀痰再採取運用の効果の評価
研究の意義・目的	2016 年に世界保健機関（WHO）が提案した「診断の適正化（Diagnostic Stewardship）」という考え方は、病気の検査をより効果的に行い、適切な薬の使い方（特に抗生物質）を支援することで、感染症の治療の質を高めることを目的としています。特に、検査の前に行われる「検体採取」、つまり患者さんから取る検体（たとえば、せきで出た痰など）の正しさは、検査結果の信頼性や正確な診断に大きく関わってきます。私たちの病院では、入院患者さんから出された喀痰の検査のうち、60%以上が検査に適さない「不適切な検体」と判断されていました。こうした検体では、感染を引き起こしている菌を正確に見つけることが難しくなり、治療に使う薬を正しく選ぶのが困難になる恐れがあります。この問題に対して、最初は病院内で注意喚起を行いました。効果は十分ではありませんでした。そこで、診療を行う部署や検査部門、感染対策チームなどと協力し、質の悪い痰の検体が出された場合に、再度適切な検体を取り直してもらう「再採取依頼システム」を作り、導入しました。この研究では、そのシステムを導入する前後の各 1 年間ずつのデータを比較し、どれだけ効果があったかを調べます。また、痰の検体を出した患者さんのうち、肺炎と診断された人について、治療の結果にどんな影響があったかも評価します。
研究を行う期間	研究機関の長の研究実施許可日～2027 年 3 月
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2022 年 11 月 1 日から 2024 年 10 月 31 日の 2 年の間に大阪公立大学医学部 附属病院入院されており、一般細菌喀痰検査を提出した方が対象になります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 ①一般細菌喀痰検体：喀痰の品質（M1,M2,P1,P2,P3） ②患者基本情報：診断名 ③患者状態：体温、呼吸数、脈拍数、血圧、意識レベル、呼吸症状の有無 ④画像検査結果：胸部 X 線検査及び、胸部 CT 検査所見 ⑤血液検査結果：白血球、CRP、プロカルシトニン ⑥使用薬剤：抗菌薬の種類および使用日数
試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	この研究は、大阪公立大学医学部附属病院感染制御部のみで行います。 【研究責任者】仁木 誠
個人情報の取り扱い	この研究にご参加いただいた場合、あなたから提供された診療情報などのこの研究に関するデータは、すぐには個人を特定できない形式に記号化した番号により管理されます。この研究から得られた結果が、学会や医学雑誌などで公表されることはあります。このような場合にも、あなたのお名前など個人情報に関することは含まない形で公表されます。

本研究の 利益相反	本研究の利害関係については、各研究機関で定められた利益相反マネジメントの規定等に従って必要に応じて各研究機関の利益相反マネジメント委員会へ報告を行うことにより、利益相反を管理し研究を遂行します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力を したくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学医学部附属病院 感染制御部 微生物検査室 担当者氏名：三谷 佳 電話番号：(06) 6645-2213